

## 第4回熊本県環境モニタリング委員会の概要

1 日時：令和8年（2026年）2月18日（水）9時30分～11時

2 場所：熊本県庁防災センター 303会議室

3 出席者：別添出席者名簿のとおり

4 概要：

- ・開会、原田環境局長挨拶、事務局からの委員等を紹介。
- ・次に議事に入り、資料2により事務局から説明。その後、委員から質疑や意見等があった。

5 主な質疑・意見

委員：2025年1～4月の大気中のベンゾ(a)ピレンとトルエンの濃度が菊陽の方が高い理由は何か。

事務局：この2つの物質は車の排気ガスに含まれる成分であり、可能性の一つと考えている。全国データと比べて、特に高い状況ではない。

委員：稼働後に大気中のクロムが増加しているように見えるが、どのような発生源から広域的に広がるのか。

事務局：玉名と菊陽が同時に高くなっているので、越境汚染が考えられる。

委員：単に稼働前後で比較するのではなく、工場の稼働率が徐々に上がってくることも踏まえて、影響があるかないかの判断をするとよいのではないか。

事務局：稼働前後だけでなく、どのように変化してきたかを詳細にみていきたい。

委員：突発的な濃度上昇に過敏に反応するのではなく、過去からのデータを確認し、総合的に判断していく必要がある。

事務局：大気の場合は突発的な変化があるため、今後どう評価していくかは考えていきたい。

委員：北部浄化センター排水や河川は基準をクリアしており、健康リスクは問題ないと考えている。

委員：水生生物など生態系へのリスクの視点も入れて評価したらどうか。

事務局：環境基準の中で生物に関する項目もあるが、今のところ、河川の環境基準を超過していないので大丈夫だと考えている。必要に応じて委員会の意見を聞きながら検討していきたい。

※規制外物質に係る議論については非公開

—以上—